

ヤマハOB 連合会設立 30 周年記念 チャリティーコンサート

出演者プロフィール

「荒川知子とファミリーアンサンブル」



荒川知子はダウン症の障害を持って生まれました。作業所「すていじ仙台」で働きながら、ファミリーアンサンブルとして全国各地で演奏活動を行っています。

知子はリコーダーでその才能を発揮し、美しい響きを皆さんに喜んでいただいています。また宮城県共同募金会の親善大使、三重県の全国ファミリーアンサンブルコンテストの特使としても活躍しています。

父はフルート、母はピアノ、本日は出演出来ませんが、兄は新日フィルのフルート奏者、兄嫁はクラリネット奏者です。「みんなしあわせ」「しあわせのたね」に続いて、今年3枚目のCD「しあわせの木」をリリースしました。

本日は知子、両親、兄嫁の4人の演奏をお届けします。(荒川健秀)

「ヤマハOB混声合唱団」



ヤマハOB混声合唱団は、2013年10月、東日本ヤマハOB会会員の熱い期待に応じて設立。当初21人の団員でスタートしましたが、現在は39人にまで成長しました。団員は東日本ヤマハOB会会員と、ヤマハ(株)及び関連会社に在籍したOBからなり、指導者、指揮者、編曲者、伴奏者なども全員がOBで、団に所属しています。月2度の練習によりレパートリーも増え、演奏の機会もヤマハOB会の総会・懇親会や新年会、ヤマハ音楽振興会の大懇親会への出演などで定例化してきており、ヤマハシニアアンサンブルとの共演も今回で2度目になります。ステージ演奏

のたびに練習に力が入り、合唱団としての実力も着実に向上しつつあります。今回の、ヤマハホールという懐かしく、素晴らしい音響の会場での演奏に、これまでの練習成果が遺憾なく発揮出来るよう、団員一同頑張っております。(代表:中根佐多子)

「ヤマハシニアアンサンブル」



このアンサンブルはかつてヤマハに勤めていた人達が集まって作った同好会です。発足17年を迎えて現在団員22名、平均年齢70代で最長老の人は92歳です。活動内容は定期演奏会の他に、OB会行事での演奏、更に社会貢献活動として病院福祉施設や地域敬老会での慰問演奏を定例実施し、また6年前の東日本大震災の時には、ヤマハホールでチャリティーコンサートも行いました。メンバーには現役時代販売活動が主で演奏には縁がなかった人もいた半面、音楽指導に携わっていた専門家も数人いて、編曲、指揮、演奏の指導を頂いています。お蔭様でレパートリーはクラシック、ポピュラー、演歌まで幅広く300曲以上となりました。今回は、ヤマハOB混声合唱団とのジョイントもあり、是非とも成功させたいと願っております。(代表:甘利雅彦)

寄付先プロフィール

「東北ユースオーケストラ(TYO)」

代表・監督の坂本龍一氏は「東北から、子供たちと共に新しいオーケストラの形に挑み、できたら音楽の枠をも越えた東北ならではの創造性を世界に向けて発信できたらと願います」と目指す姿を語ります。

誕生のきっかけは、全国楽器協会と坂本龍一氏が、東日本大震災直後の2011年7月に結成した「こどもの音楽再生基金」の活動に遡ります。震災で壊れた楽器の修理、幼稚園、小学校で実施した鑑賞教室、そして被災した地域の中学、高校の音楽クラブを集めての「School Music Revival Live」を実施して、基金は予定の3年間で活動を終了しました。その志を引継ぎ、坂本龍一氏は、更に長期にわたり現地に根付いた復興活動に発展させたいと考え、2015年に被災三県の小学校・中学校・高等学校・大学の子供たちを集め演奏活動を始めたのが、この「東北ユースオーケストラ」になります。震災を乗り越えて生まれた強く美しい音楽を、東北から全国、そして世界へと願いながら、毎年100人強の子供たちと日々の活動を続けています。

